

## 岩手大学 教学アセスメントプラン

### 1. アセスメントの目的

大学をめぐる社会情勢や本学の学生の状況を視野に入れつつ、データに基づいた大学全体、教養教育、学位プログラムごとの専門教育の教育改善（カリキュラム改善・授業改善を含む）と、学修支援、学生支援の一層の向上を図ることを目的として、学修成果のアセスメントを行う。

アセスメントでは、直接評価と間接評価を取り入れ、また入学時から卒業までの変化を検証する。直接評価については、教育に関する各種指標を収集・分析し、間接評価については、学生に対するアンケートを中心にデータを収集する。アンケートにおいて入学時の学修への展望、在学時の学修状況、卒業時の能力獲得状況、卒業後の能力活用状況を測ることで、学生全体の状況だけではなく、個々の学生変化を追跡する。このデータを教育に関する各種指標と併せて分析することで、学修支援の改善を行う。

### 2. 達成すべき水準

アセスメントに当たり、本学では、達成すべき質的水準を以下のように定める。

学士課程においては、学士課程全体および学位プログラムごとのディプロマ・ポリシーにおいて定められている資質・能力とする。

大学院修士課程においては、修士課程全体および学位プログラムごとのディプロマ・ポリシーにおいて定められている資質・能力とする。博士課程、専門職学位課程においては、研究科ごと、および学位プログラムごとのディプロマ・ポリシーにおいて定められている資質・能力とする。

アセスメントにあたっては、この質的水準に対する到達を中心に確認を行う。

### 3. アセスメントの方法

別紙のとおり。

| 各種指標、調査              | 評価項目  | 評価の観点   | 実施時期・頻度            | 結果の活用方法                                  |
|----------------------|---|---|--------------------|--|
| 新入生調査                | 全学 DP に対する達成度<br>自己評価、入学に際して<br>の満足度、大学生活への<br>展望、キャリア意識            | 入学時における全学 DP の各項目に対する到達度を確認<br>する。本学への入学や入学に係る手続きに関する満足度を<br>確認する。学生生活や学修環境への期待・要望・懸念等を<br>確認する。卒業後の進路に関する意識・展望を確認する。 | 毎年 4～6 月<br>(1 年次) | 教育課程の改善、学生生<br>活の支援、キャリア教育<br>に活用する。     |
| 成績評価分布               | 履修者の単位修得状況及<br>び成績評価比率  | 【各授業科目】履修者が授業の到達目標をどの程度の水準<br>で達成できているか、また到達目標の設定が妥当なもので<br>あるかどうかを確認する。  | 毎年 2 回             | 授業の到達目標の達成水<br>準の設定及び成績評価方<br>法の検証に活用する。 |
|                      |   | 【各プログラム】授業科目の成績評価や単位認定が厳格か<br>つ客観的に行われているか、成績評価の分布に偏りがな<br>いかを組織的に確認する。   | 毎年 2 回             | 成績評価の在り方の改善<br>に活用する。                    |
| 授業アンケート（教養<br>教育科目）  | 学修の充実度、学修行動、<br>授業運営への満足度   | 各授業科目における学修プロセスの適切さや授業・学修へ<br>の満足度・充実度を確認する。  | 毎年 2 回<br>(各学期末)   | 授業の改善に活用する。                              |
| 学修状況調査               | 全学 DP に対する達成度<br>自己評価、学修行動、教育<br>内容・環境への満足度、学<br>生生活の充実度、キャリ<br>ア意識 | 全学 DP の各項目に対する学修成果を確認する。学修プロ<br>セスの適切さや満足度・充実度を確認する。卒業・修了後<br>の進路に関する意識・展望を確認する。                                      | 毎年 3 月             | 教育課程の改善、学生生<br>活の支援、キャリア教育<br>に活用する。     |
| GPA 分布               | 学科・コースごと、年次ご<br>との GPA の平均値・分布                                      | 組織として、学修の達成度が期待される水準にあるか確認<br>する。   | 毎年 1 回             | 学修の達成度把握と学修<br>指導に活用する。                  |
| 卒業時・修了時調査            | 教育や大学生活への満足<br>度、卒業後の進路   | 教育内容全般や大学生活全般への満足度や充実度を確認<br>する。予定している卒業・修了後の進路を確認する。   | 毎年 1～3 月(最終<br>学年) | 教育課程の改善、キャリ<br>ア教育に活用する。                 |
| 卒業・修了率、留年率、<br>中途退学率 | 標準修業年限以内からの<br>学位の取得状況や退学率  | 標準修業年限以内で学位の取得に至っている比率（卒業<br>率）を確認する。留年率、退学率が高い場合はその要因を<br>確認する。  | 毎年 1 回             | 教育課程の改善、学生生<br>活の支援に活用する。                |

|            |                                     |   |          |                       |
|------------|-------------------------------------|---|----------|-----------------------|
| 卒業生・修了生の進路 | 卒業生・修了生の就職率・進学率、就職先、進学先、資格取得状況      | 就職の状況、進学の状況が DP に則して妥当なものであるか、全学 DP に則した人材育成がなされているかを確認する。    | 毎年 1 回   | 教育課程の改善、キャリア教育に活用する。  |
| 卒業後・修了後調査  | 現在の就業、大学からの学修・支援と仕事の関連 (DP と卒業後の関連) | 学位授与に際して身につけた能力が卒業後に生かされているかと、在学中にさらに身につけておいた方がよかった能力を確認する。   | 3 年に 1 度 | 教育課程の改善、学内の環境整備に活用する。 |
| 雇用先アンケート   | 卒業生・修了生の雇用先における学修を踏まえた活躍の評価         | 卒業生・修了生が卒業後に在学時の学修成果を生かしているか、それについて外部の視点から見てどのようなものであるかを確認する。 | 3 年に 1 度 | 教育課程の改善、キャリア教育に活用する。  |